

寄贈雜誌

宇宙論 大島豊著
 日暮視 菅原兵治註
 金鶴學院刊

寄贈圖書

哲學雜誌 八月號
 倫理研究 八・九月號
 生理學研究 八月號
 商學討究 六月號
 丁酉倫理講演集 八月號
 社會學徒 八月號
 信濃教育 八月號
 學校教育 八月號
 自然科學と博物館 八月號
 哲學改造 八月號
 國雜 八月號
 願悲 八月號
 大東 八月號

新刊紹介

藤井博士全集第四卷 故藤井健治郎著

第一分冊 正義の研究

第二分冊 國家の倫理

一 正義の研究

著者藤井健治郎博士は、博士の所謂主觀道德學に關しては、既に「主觀道德學要旨」(本全集第二卷)を著してゐられるが、更にこれに對して客觀道德學なるもの、可能なることを提唱せられ、これを確立することによつて、自己の倫理學體系を完成せんとする意圖を有つてゐられたことは、既にそれに關する幾多の問題を提出されてゐられる(本全集第一第二第四第五の各卷其他)ことによつても容易に想像されることである。「正義の研究」は、斯かる研究の一端として、客觀道德の一つの理念としての正義に關する諸問題を取扱はれたものをあつめたものである。『正義は人間の社會的生活に於いて甚だ重要な役目を働いてゐる道德觀念である。法律及び政治の基礎、及びその運用も、又經濟の活動も皆此觀念に密接な關係を有つてゐるので、この觀念を基礎とせずしては法律も、政治も、經濟も全く成立することが出来ない。』と博士がいつてゐられる通り正義觀念は、道德觀念の中に於いて、人間生活に對して密接なる交渉を有つ所の最も重要な觀念の一つである。而してこの觀念が非常に複雑なるにも拘らず、博士は或はこの觀念の史的考察(「正義觀念の發達」)、「正義觀念の變遷」から、或は